

剣風



事務局 〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和5-6-5
浦和合同庁舎4階
Tel (048)834-8869
Fax (048)834-8879
http://www.saitama-kendo.or.jp
(編集責任者 奥田昌利)

第9号 平成27(2015)年11月30日発行 (題字 前会長 野澤 治雄)



「私の修業時代」

公益財団法人 埼玉県剣道連盟
居合道部顧問 範士八段(剣道教士七段) 渡辺 秀雄

昭和32年、二十歳で故郷新潟を出て東京浅草にある漬物屋に就職しました。

学生の頃は柔道に熱中し、浅草で就職してからもしばらくは町の柔道場に通っていましたが、なにぶん怪我をすれば即仕事に差し支えるため、柔道を続けることは断念せざるを得ませんでした。

しばらくすると、それまで月に二回の休日が、毎週休めるようになりました。これは柔道に代わる武道を始める良い機会だと思い、台東区の剣道連盟に入会いたしました。私と同年輩の方も多く、楽しく稽古をさせていただいておりましたが、仕事の方も忙しくなり、特に平日は台東区の稽古に参加できないことが多くなりました。平日、仕事を終えた後でも稽古ができればと思っていたところ、居合道の大村唯次先生のご指導の機会を得ることができました。

大村先生は17歳の時に長野県伊那から上京され、本郷真砂町にある中山博道先生の有心館道場に入門され、内弟子として玄関番をしながら剣道・居合道・杖道の修行をなされました。警察官としてもご活躍され署長まで勤め上げられた方で、のちに全日本剣道連盟居合道制定委員もお務めになられました。

お仕事にも居合道にも全身全霊を惜しみなく注がれた方ですから、さぞや烈々たる激しい人物かとお思いでしょうが、実際には静かで温かなお人柄をなされていました。どんなに居合道に熱中しても決して本業を疎かにしてはならないという私の信念は、この大村先生を範にしたものです。

大村先生の弟弟子には、居合道・剣道・杖道の三範士で埼玉県剣道連盟居合道部初代部長もお務めになられた長本寿先生をはじめとして、ともに剣道範士九段、居合道範士九段でいらっしゃる中倉清先生や中島五郎蔵先生など、錚々たるお顔ぶれが揃っておりました。また、大村先生がお亡くなりになられた後には草間昭盛先生(範士九段)のご指導をいただくことになりました。これらの大先生それぞれにご指導を賜る機会に恵まれたのは、わが居合道人生の宝と言えますが、反面、私が後進の方を指導させていただく場面では、大先生方が私に施していただいたような指導ができていようか、居合道から得たものをきちんと還元できているであろうかと自問せずにはいられません。

ともあれ、このように仕事の合間を見つけては剣道と居合道に一生懸命取り組んでまいりました。昭和50年には漬物屋のご主人やそのご家族、業界の社長さん方など多くの支えの中で独立し、株式会社渡辺食品を設立いたしました。仕事は一段と忙しくなりましたが、大村先生に倣い、あくまでも本業第一ですから皆さんが集まる稽古会に参加できないことも増えてまいりました。しかし、狭いながらも自宅内に稽古場所を設け、仕事の合間にわずかな時間を見つけては一人稽古に励みました。昼休みに自宅の六畳間で刀を振ることで、少しでも稽古不足を取り戻せるものと信じて取り組んでまいりました。不遜ながら、「意志あるところに道は通ず」とはよく申したもので、どんな状況でも確固たる意志さえあればいかようにも工夫するものだと思います。

そのように修行を進めていくうちに、いつしか埼玉県剣道連盟の居合道部長という大役を仰せつかることになり、その任期中の平成6年に埼玉県で居合道の全国大会が開催されたことは今でも強く思い出されます。なにより、全国の先生方をはじめ埼玉県剣道連盟の先生方、部員のみなさまのご尽力により、無事、盛会のうちに終えることができましたことは今でも感謝しつくせない思いです。

この件に限らず、振り返ってみますと、よき師、よき仲間にも恵まれ、みなさまに支えられてこそ居合道人生であったと身に染みて感じます。ただただ感謝あるのみです。この感謝の気持ちを忘れれば、私の居合道など何も意味を持たなくなります。

私は今も修行時代の真っ只中におります。謙虚で素直な心を忘れず、基本を大切に、静かな気合いで取り組みたいと思います。

みなさまとともにこの修行を一日でも長く続けられれば幸甚の至りでございます。



全日本演武大会(2015・5・5)における渡辺秀雄範士
写真提供:体育とスポーツ出版社

「大会記録この1年」(2015年後期) 全国大会(上位)入賞結果・県予選会結果(報告)

順不同

——全国大会——

- 都道府県対抗女子優勝大会 第3位
(7・18) 日本武道館
・準決勝 長崎3-1 埼玉
- 高校総体(8・4~6) 和歌山ビッグホエール
・男子団体決勝トーナメント1回戦
埼玉栄2-2(代表負け) 酒田光陵(山形)
- 国体(10・3~5) 和歌山県那智勝浦町
・成年男子団体2回戦 埼玉3-2 長崎
・同3回戦 京都4-0 埼玉
・成年女子1回戦 宮崎2-1 埼玉
・少年女子1回戦 愛媛3-2 埼玉

——全国大会予選——

- 県学校総体高校の部(6・14~15) 県武道館
・男子個人 ①元吉雄弥(埼玉栄)
②曾田(本庄一) ③設楽(埼玉栄)
・女子個人 ①嶋田莉子(本庄一) ②安井(与野)
③中沢(伊奈学園)
・男子団体 ①埼玉栄(端、中村、鈴木、設楽、元吉) ②本庄一 ③大宮東 ③城北埼玉
・女子団体 ①本庄一(伊東、平出、河嶋、大島、島田) ②埼玉栄 ③伊奈学園 ③淑徳与野
- 全日本剣道選手権県予選(8・30) 県立武道館
①米屋勇一(県警) ②奥島和泉(東松山)
③本間将光(県警)

——関東大会——

- 関東高校大会 優勝
(6・7~8) 千葉ポートアリーナ
・男子団体決勝 埼玉栄(端、中村、鈴木、設楽、元吉)
2-2(代表勝ち)
土浦湖北(茨城)
・女子団体 ③本庄一
・男子個人 ③中沢(城北埼玉)
- 関東都県団体対抗優勝大会(日光大会) 優勝
(8・18) 日光東照宮武徳殿
・決勝 埼玉(足立、小林、橋本、斎藤、米屋)
2-1 東京

——県内大会——

- 高齢者剣道大会(6・27) 県立武道館
・60歳以上65歳未満 ①下川龍二(久喜) ②甲村(北本)
③加藤(川口) ③鶴間(熊谷)
・65歳以上70歳未満 ①伊藤六夫(朝霞)
②山中(北本)
③立山(朝霞) ③山元(朝霞)
・70歳以上 ①渡辺秀男(東松山) ②會田(浦和)
③若林(東入間) ③川下(久喜)
- 第3回埼玉県杖道大会(6・29) 県立武道館
・基本の部 ①在間拓幹(埼玉大)
②金旻燦(埼玉大)

- ・1級の部 ①加子晏楓(大宮武林会)
②伊藤貴広(彩杖会)
- ・初段の部 ①中島侑規子(久喜杖道会)
②齋藤浩(彩杖会)
- ・2段の部 ①マクドエル・デービット(久喜杖道会)
②石原仁道(浦和杖道会)
- ・3段の部 ①杉崎かずみ(久喜杖道会)
②加子瑛絵(大宮武林会)
- ・4段の部 ①長島恭彦(武南杖道会)
②朝比奈辰樹(所沢杖友会)
- ・団体の部 ①久喜杖道会(野口、杉崎、中島)
②東入間支部(小山、小林、勝呂)

- 埼玉県居合道大会(7・5) 県立武道館
・初段以下の部 ①長島史興(加須) ②廣嶋(久喜)
③望月(高校) ③都丸(浦和)
- ・2段の部 ①小笠原晃基(東入間) ②細江(高校)
③横田(東入間) ③原田(東入間)
- ・3段の部 ①玉光弘和(浦和) ②志村(浦和)
③森(草加) ③中島(久喜)
- ・4段の部 ①小山聖二(上尾) ②山口(草加)
③安藤(飯能) ③青山(東入間)
- ・5段の部 ①青木四郎(久喜) ②笹村(川口)
- ・6段の部 ①須田美佐江(浦和) ②武藤(所沢)
- ・7段の部 ①三上賢治(所沢) ②鴨志田(高校)

- 学校総体中学の部(7・27~28) 越谷総合体育館
・男子団体 ①北本(栗原、若松、鈴木、林、新井)
②桶川 ③春日部大沼 ③川口芝東
・女子団体 ①春日部大沼(小川、川上、奥崎、渡部、横川) ②越谷栄進 ③さいたま白幡 ③杉戸
・男子個人 ①新井雄大(北本) ②菅原(城北埼玉)
③水沢(新座2) ③菅尾(秀明)
- ・女子個人 ①横川胡桃(春日部大沼) ②梅原(川口南)
③関根(杉戸) ③佐々木(吉川南)

- 県4地区対抗(8・2) 県立武道館
・リーグ戦 ①南部地区 3勝 ②西部地区 2勝1敗
③東部地区 1勝2敗 ④北部地区 3敗

- 埼玉県剣道大会小学生の部会(11・1) 県立武道館
[団体戦] ①越谷B ②川口A
③秩父 ③上尾A
[個人戦]
・3年生の部 ①松井望心(越谷) ②岩本貴良(西入間)
③橋本和真(川口) ③橋本唯秀(西入間)
・4年生の部 ①関根昇之介(北本) ②長島彪流(大宮)
③橋本一吹(西入間) ③池田稀羅(大宮)
・5年生の部 ①川越大生(越谷) ②工藤智康(越谷)
③柳菜々海(北本) ③三輪拓輝(越谷)
・6年生の部 ①梅澤萌里(飯能) ②浅崎伶王(越谷)
③濟藤心楓(北本) ③佐原永修(久喜)

- 埼玉県剣道大会一般の部(11・22) 県立武道館
・女子の部 ①高橋佳菜子(警察) ②太田かおり(高校)
③濱本友里恵(久喜) ③萩原愛子(越谷)
・四段以下の部 ①田島純一(警察) ②益子貴義(警察)
③植竹倅希(幸手) ③時田亮(春日部)
・五段以上の部 ①足立柳次(警察) ②嶋田貴文(警察)
③平澤貴文(警察) ③渡邊悠太(警察)
・夫婦の部 ①末武(川越) ②古谷(小川)
③葦塚(本庄) ③須田(所沢)

平成27年8月18日、第65回日光剣道大会が日光東照宮武徳殿で開催されました。この大会は日光東照宮400年式年大祭記念大会で、関東都県団体対抗優勝大会と関東都県六七段選抜女子優勝大会が行なわれました。最初に大会参加者全員で御神前に拝礼、そして大会会長の稲葉久雄日光東照宮宮司挨拶、全日本剣道連盟の福本修二副会長挨拶、栃木県剣道連盟の白石正範会長挨拶があり、田口榮治審判長より家康公の御霊に捧げる公明正大な試合を望むとの試合上の注意の後、演武が開始されました。まず、小倉昇範士による夢想神伝流の居合、吉澤和夫教士と高濱一夫教士による日本剣道形が披露されました。

関東都県六七段選抜女子優勝大会には埼玉県から市村麻美子七段と内野尚美七段が出場しました。二人共、一回戦で決勝に進出した選手と当り堂々と戦い健闘しましたが僅差で敗れました。続いての関東都県団体対抗優勝大会の部は関東1都7県と地元栃木県Bチーム、そして徳川家に縁の深い静岡県と福島県の11チームで優勝を目指して東照宮祭神へ奉納の試合です。埼玉県は先鋒・足立柳次五段（埼玉県警察）、次鋒・小林竜也五段（解脱錬心館）、中堅・橋本桂一六段（伊田テクノス）、副将・齋藤洋平六段（伊奈学園）、大将・米屋勇一七段（埼玉県警察）の選手構成によって試合に望みました。前日、和やかにしっかり英気を養い当日は選手監督全員が心身共に元気で試合に向かいました。一回戦の福島県では前半調子が上がらず苦戦したが大将戦を制し2対1で勝利し二回戦に駒を進めました。二回戦は地元栃木県Aチーム、この記念大会に期待され意気を感じる強豪でしたが、本県選手も負けじと健闘し1対1の本数勝で勝利することができました。準決勝はこれ又強豪神奈川県チーム、追いつ追われつの攻めぎ合いで本県大将米屋選手と神奈川県の大将高鍋選手の激闘は1本1本の引き合いで1対1の本数勝の僅差で勝利。そして決勝戦、相手は過去ダントツの優勝回数を誇り前年度優勝の東京都チームです。この日も絶好調の相手東京都に対して本県全選手が最後の気迫を持って試合に望みました。この日調子が上がらなかった先鋒、次鋒が目覚めるような勝ち、猛烈に反撃して来た東京都チームをしのぎきり2対1で勝利、ついに17年ぶり13回目の優勝をすることが出来ました。一戦一戦ギリギリの中で勝ち上がって来られたのも、個々の選手が本当に大事な所で力を発揮しチームの団結力となって表われたものと思います。この日の優勝を見守った埼玉県の豊嶋会長、大澤、金田審判員、女子選手と共に喜ぶことが出来、選手監督は感激でした。又試合が終了し戦ったお相手の監督さんや他都県の審判員の先生方にも祝福の言葉を掛けていただき、改めて交剣知愛を感じ剣道を通じての友好に感謝でした。この試合の後、審判をされた先生方による特別奉納試合が行なわれ本県の大澤先生、金田先生が素晴らしい立会を披露されました。日光東照宮400年式年大祭の記念の大会に優勝できたのも、選手一人一人の頑張りとその最強のチームを選んでくれた埼玉県剣道連盟、そして指導強化の先生方に心より感謝を申し上げ、第65回日光剣道大会の報告と致します。



7月18日(土)に日本武道館において、全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会が開催されました。この大会は、先鋒から大将までの年齢構成が幅広く、それぞれの世代の持ち味を十二分に生かした試合が展開され、観戦する方々を魅了します。選手も普段の大会とは一味違った流れの中で試合をしていきます。そんな楽しみがたくさん詰まった大会であると思います。また、7回目を迎えるこの大会で埼玉県は、二年前に念願の優勝を果たしました。第1回大会と第2回大会では、連続して3位入賞経験があり、輝かしい実績を残してきています。今年も自然と期待も高まる中で、この大会の予選が4月に行われ選手が決定しました。(先鋒の高校生は、関東大会県予選個人優勝者に決定します。)

監督を仰せつかってからは、大会までの三か月間に選手の強化とチームワークづくりの機会を計画していきました。先鋒と次鋒は、それぞれの所属校で十分な練習の機会に恵まれています。社会人となると稽古の時間を確保することが難しくなってきます。選手の皆さんが、時間や場所が限られた中でより質の高い稽古を目指して取り組んでくださいました。特に、設定した強化練習には正選手はもちろん、県予選で補員となられた方が大勢参加してくださいました。選手だけでは小規模になってしまいがちな強化練習に活気を与えてくださいました。6月の終盤には、岩手県と福島県が来県。7月の頭には新潟県と山梨県を迎えて試合練習を数多く経験することができました。いずれも、同じく都道府県大会に出場する選手や、国民体育大会ブロック大会に出場する選手でしたので、普段は、稽古が中心となってしまう中堅、副将、大将の年代にとっては、実戦的な内容が大変実りある時間となりました。遠方から足を運んでいただきました各県の選手の皆様に大変感謝しています。

迎えた大会は、前日から大変明るく元気なムードの中で試合に臨むことができました。初戦の島根県戦から、先鋒の河嶋選手の動きの良い攻めで、チーム全体が伸び伸びとした試合の流れができた感があります。次鋒の馬渡選手は、小柄な体ながら粘り強く一瞬の機会を逃すことなく技を出し勝負を繋ぎました。中堅の荒井選手は、豪快に相手の中心に向かって打ち切っていく試合は見事でした。副将の村山選手は、相手の出頭を捉える技が冴えました。そして大将の内野選手は、この大会に向けて多くの稽古を積んできました。その自信が大切な一本に結びつきました。今回の大会はまさに全員剣道で、5人の選手がそれぞれの得意技やチャンスを生かし、良いところを出して勝利に導いていった試合でした。3回戦佐賀戦、準々決勝の群馬戦とも競った内容でしたが、選手全員が活躍して勝ち上がっていったという印象がとても強いものでした。準決勝の長崎戦こそ、相手チームに流れがいったことが悔やまれますが、3位という結果にふさわしく各選手の活躍は大変素晴らしいものでした。

先にも述べさせていただきましたが、この大会は幅広い年代から選手が選出されます。長い間剣道を続けている先輩方の背中を追いかけ、若い世代の皆さんが、多くの経験を積みながら剣道を通じて成長していけることを熱望します。今回の大会出場がひとつの糧となり、年齢を重ねて大将の世代になっても「剣道」の素晴らしさを、また若い方々に伝えていっていただけたら嬉しいです。

今回の大会に際しまして、埼玉県剣道連盟の先生方から沢山の御指導や激励の言葉を頂きましたこと深く御礼申し上げます。また、選手の御家族の皆様には、選手の為に応援をはじめ多くの御支援を頂きましたこと、選手に代わりまして御礼申し上げます。最後に、強化練習にて御協力を頂きました剣友の皆様、大会当日を含め勇気がでる御力を沢山の御力ありがとうございました。多くの方々からいただいたものを力にして、埼玉県全体が一つとなって、また次の各種大会に繋がっていくことができますよう心よりお祈り申し上げます。

【選手】

大将 内野 尚美 (所沢支部) 副将 村山 千夏 (警察支部)
 中堅 荒井 貴子 (久喜支部) 次鋒 馬渡 丈絵 (平成国際大4年)
 先鋒 河嶋香菜子 (本庄第一高3年)



川口市剣道連盟会長 小倉 順二郎

はじめに

近年、本市選抜少年剣士の活躍がめざましく、埼玉県剣道連盟よりその育成強化の取組みを紹介したいとの依頼を受けました。十分にご満足いただける内容であるとは思いませんが、ご依頼に応じて一筆述べさせていただきます。

1. 選手選考と強化

毎年七月の第一日曜日に川口市青少年育成本部が主催する『少年少女スポーツ大会・剣道の部』（平成二十七年度参加選手数二四五名）を連盟が主管して行っています。参加申し込み選手を学年別・男女別の個人戦トーナメント方式で優勝者を決めます。申し込み人数の多い学年は二十五人前後で二組、三組と分けます。したがって、学年によっては優勝者が二人いたり三人いたりします。この大会で各試合場の審判主任を中心とした審判員が有望選手を見つけ連盟の強化委員会に推薦します。

強化委員会は推薦された選手の所属する団体に連絡し本人・保護者の了解が得られると川口市剣道連盟強化指定選手にします。人数は毎年各学年二十五人前後になります。練習は夏休みや体育協会が主催する『体育の日・スポーツ教室』などを利用して三、四日になりますが年によって異なります。指導は強化委員会のメンバーを中心に各団体の指導者と中学生や高校生の協力も得て行います。また、強化指定選手によっては各自所属する団体での稽古のほかに体育武道センターや芝スポーツセンターなどの稽古日に一般の愛好家に混じ

って稽古をしている子もいます。最終的な選手選考は強化選手同士の試合によって決めます。

2. 青少年を対象とした連盟主催の大会

①一月に行われる『川口市高等学校剣道大会』

②毎年二月十一日に行われる『川口市中学校剣道大会』

③三月に行われる『川口市少年剣道大会(団体戦)』（平成二十六年度参加選手数二四三名）

④十二月に行われる『小学生剣道選手権大会』（平成二十六年度参加選手数二六六名）

これら大会ではすべて代表者会議が行われていますが①は高体連に②は中体連に任されています。①と②では、それぞれの大会において、その年に関東・全国の大会に出場した選手や部活で顕著な働きをした生徒に今後の継続した活躍を期待して連盟より賞状と記念品が贈呈されます。

先に紹介した『少年少女スポーツ大会』と③と④についてはそれぞれの大会の二ヶ月前に市内十九団体の代表者と連盟関係者が集まり入念な準備・打ち合わせ会が持たれます。特に③の『川口市少年剣道大会(団体戦)』は平成二十七年度で四十五回を迎え連盟では最も古い大会となります。



現在の連盟役員の中にはこの大会で活躍した経験を持つ高段者が数人いるほどの歴史があります。この大会に参加した六年生には中学校へ行っても剣道を続ける意欲を喚起する目的で全員に敢闘賞を贈呈しています。④は平成二十七年度で六回目の最も新しい大会ですが、男女関係なく個人戦トーナメント方式で各学年の年間チャンピオンを決めます。この大会に参加した五年生以下の選手からは次年度の本市代表選手の活躍が占める意義ある大会となっています。

3. 伝統文化継承のために

剣道は世界に誇る日本の伝統文化です。少子高齢化の中で、剣道を継承発展させるためには出来るだけ多くの子ども達に興味関心を持たせ、体験、愛好してもらうようにすることです。そうすることによって自然に裾野が広がり頂きも高くなるはずで、そのためにはしっかりした組織作りと熱心で粘り強い広報活動が大切です。写真で紹介するようなパンフレットを作成し市内三十五カ所の公民館やスポーツセンター、七十一カ所の幼稚園や保育園から配布できるように手配しています。さらに、JR川口駅前の電光掲示板を使ってテロップを流すようにしています。また、市内の十九団体が全てホームページを持ち担当者を置きインターネットによる情報交換のほか「月例連絡会議」と称して代表者と連盟事務局が月に一度集まってUSBメモリの受け渡しや情報の共有を図るようにしています。

一方、剣道を始めた子ども達に大人を信頼して剣道の良さを理解し永く続けてもらえるように、試合における審判技術の向上を目指して審判講習会を独自に開催しています。そこでは、小学生、中学生、高校生、一般の選手に試合をしてもらい、それぞれの発達段階に応じた有効打突判定基準を

見極めたり、規定の審判所作を身に付けてもらえるように実習を繰り返し行っています。



※このチラシは川口全域の道場（剣友会等）の紹介用（A3版）の表紙となるものです。

おわりに

本市体育武道センター剣道場の神棚の下にはワインレッドの少年用試合胴が並べられています。川口剣道連盟強化指定選手に選ばれた子ども達はその前で特別指導を受けているわけです。その胴を着けて代表選手として試合に臨む日をめざして、おのずと交剣琢磨によって自らを鍛え上げることに集中できているものと考えます。

加盟団体紹介 (その⑦)

鴻巣市剣道連盟 - 青少年の健全育成、健康増進を目指して -

会長：河野 喜八郎 専務局長：渋川 晴俊



1. 沿革 本連盟の前身の支部は、市制施行（昭和29年）と時を同じくして誕生したが、剣道の歴史は古く、剣聖と言われた高野佐三郎範士を鴻巣勝願寺公園にお迎えし、土の上での稽古会を行い、小沢 丘先生、佐藤 顕先生も末席にいた記録が写真で残されている。

その当時、笠原地区に高野範士の門弟で伊藤賢一先生と箕田地区に中村先生がおられ、青少年を指導していた。

発足当時は、鴻巣市、北本町、桶川町、吹上町、川里村の一市三町一村と広範囲で組織されていた。会員は30名ほどでまとまった支部であった。当時は定まった稽古場所がなく、旧家の庭先の一角を道場として練習をし、苦勞していた様である。また、小沢丘範士をお迎えして県下の剣士250名による試合等も催され盛んに活動していた。

昭和47年に上尾警察署開署に伴い桶川市が、そして昭和57年には北本市がそれぞれ鴻巣支部から独立した。現在は、平成18年に鴻巣市、吹上町、川里村が合併し鴻巣市となり、現在は、四誠館鴻巣分館（吉岡正名誉会長）、鴻巣少年剣道会、闘魂会、吹上少年剣道会、各中学校が属している。

2. 活動状況 ①現在、月二回の月例稽古会、大晦日から元旦にかけての越年稽古、鴻巣市武道大会は年一回行われている。武道大会では、高段の先生と選手による稽古の様子を披露するなど、剣道普及に努めている。②中学校生徒を対象とした、日本剣道形、木刀による基本稽古を年三回、四段以上を対象とした審判講習会を数回行っている。③各種大会、講習会への積極的な参加促進、級審査、中堅指導者養成として青年指導者への助成も行っている。

3. 今後の目標 剣道の稽古を通じ、世代間交流を推進し、次代を担う青少年の健全育成、健康増進、また武道としての特性を生かし人間形成を目標に社会貢献をしていく所存である。

東入間剣道連盟 - 更なる充実をめざして -

会長：鈴木 寛 事務局長：津野 真生



1. 沿革 東入間地区は、ふじみ野市・富士見市および三芳町の二市一町で構成されている地区で、東は荒川を越えてさいたま市、西は所沢市、南は志木市・新座市、北は川越市に接している。首都圏30キロメートルの地理的条件に恵まれ、昭和35年ごろから東京のベッドタウンとして、人口が急増した地区でもある。

当連盟は、川越警察署より東入間警察署が独立したのを機に、昭和52年4月に東入間剣道連盟を設立し、初代会長に林栄則氏が就任し、創成期の大任を果たされました。

林会長の退任後、二代目会長として玉田共瑞氏、三代目会長に松尾勝一氏、四代目会長に吉野英明氏の先生方が就任され、当連盟の発展と青少年剣士の育成に寄与され、充実した連盟の構築にご尽力いただきました。

連盟発足後の10年目の昭和62年6月には、創立10周年記念行事として記念剣道大会を開催し、当時会長だった玉田氏が大会会長を務め、大会参加者約200名の盛大な大会となりました。また、翌年の昭和63年3月には、創立10年という年月を一つの区切りとして、10周年記念誌を発行しました。

そして、埼玉県剣道連盟が50周年を迎えた前年は、当連盟が創立してから25年が経ち、その節目として連盟の歴史とも言うべき総会資料を永久保存版として、後世に引き継いで頂きたいという思いで、一冊に纏めた冊子を発行しました。

2年後に創立40年を迎える当連盟ですが、先人たちが築いてきた伝統を引き継ぎ、その伝統と歴史を後世に伝えるとともに、更に充実した連盟の構築に努めていく所存です。

2. 活動状況 当連盟の活動は、剣道大会（年1回）、一級審査会（年2回）、審判講習会、新年初稽古会、月例稽古会（毎月1回）を連盟の主たる事業として活動している。剣道大会は小学生、中学生、高校生、大学・一般の部の個人戦と小学生、中学生の部の団体戦を行っており、毎年200名以上の参加者のもと、盛大に開催している。一級審査会は、審査会の一ヶ月前に受審者を対象にした講習会を行っている。内容は、午前は所作と日本剣道形、午後は木刀による剣道基本技稽古法と実技を連盟の先生方のご指導により行っている。そして、年明けの恒例行事となっている新年初稽古会は、極寒の中、小学生から一般の幅広い年齢層の方々に参加をいただいている事業である。近年では小学生の強化育成の一環として、他の支部との交流を含めた稽古会や練習試合に参加、実施をしている。また、管内の中体連主催による県大会予選の大会への審判員の派遣、埼玉県大会や講習会の参加など連盟の事業以外にも積極的に協力、参加している。

高校剣道連盟

会長：坂井 順司 事務局長：森田 一成



高校剣道連盟は、埼玉県高等学校体育連盟剣道専門部と組織及び構成員を同じくして、高等学校生徒の剣道部活動の普及と発展を図ることを目的として活動している。当然であるが高等学校教職員と剣道部員で構成され、運営に携わる教職員は常任委員と専門委員を合わせ約150名、生徒の登録数は本年度4月調査で男子1570名・女子826名を数える全国有数の規模の専門部組織である。

教職員は八段2名七段58名の高段者を含む強力な布陣で、各種大会運営を中心に活動する競技部、県全体のレベルアップを目的とした行事や国民体育大会等に向けた選手強化を担当する強化部、昇段昇級審査及び指導者講習会等の行事を担当する指導普及部、会計業務をはじめその他組織運営に関する事項を担当する総務部の四部署に分かれて円滑かつ充実した活動を行なっている。

一方高校生については、登録数は横ばいからやや減少傾向が見られるが、少子化による生徒全体の減少傾向に鑑みるとそれほど顕著な現象ではなく、この事は剣道専門部の指導者のみならず各支部剣道連盟の先生方の御努力の成果に違いないと改めて感謝を申し上げる所である。特筆すべきは近年の各種大会における競技実績の向上である。平成24年の全国高校選抜大会の男子本庄第一高校の優勝と女子埼玉栄高校の準優勝はまだ記憶に新しいところであるが、この偉業に前後して毎年好成績が続いている。インターハイでは、平成23年の本庄第一女子団体第3位、平成25年には埼玉栄元吉選手の男子個人第3位入賞など他にも各年度各部門でベスト8進出が見られる。国体少年の部では、平成24年の岐阜国体での男子女子アベック準優勝、翌年の平成25年東京国体でも女子が2年連続準優勝と大活躍であった。本年度も関東大会では男子団体で埼玉栄が優勝、女子団体で本庄第一が第3位、男子個人でも城北埼玉中澤選手が第3位入賞。先日の国体関東ブロック大会でも女子が強豪ひしめく中での3位通過と好調さが維持され、和歌山国体をはじめ今後大いに期待が持てる。専門部を支える歴代の先輩方を含めた人々の努力の集積と県内各高校の切磋琢磨が生み出した大きな成果と確信する。

また高校剣道連盟では、平成16年埼玉国体、平成20年埼玉インターハイ、平成21年全日本東西対抗と、間に2回の関東大会を挟んで大きな大会の競技運営に当たらせていただいた。県剣道連盟の御指導御支援のもと、教職員と高校生の献身的な努力を結集した運営によって大会の成功につなげられた事は、剣道専門部の組織力の高さを実感するものである。この経験を基に、本年度関東ブロック大会の成功に関われたことも大きな成果であった。これを平成29年埼玉県開催が予定されている全国教職員大会へと生かしていく所存である。

(文責：高体連剣道専門部委員長 若松秀樹)

編集後記

今号から、連盟の役員改選にともない、編集体制が一新された。広報部会長担当の副会長として不肖奥田昌利、副部長兼剣風編集委員長として瀧澤利行、広報部会担当の理事として尾崎勝美、宮下達也が配属され、早速今号から鋭意編集作業に入った。前広報部会長であった豊嶋現会長から種々の助言を得て今号の発行がかなった。今号の編集も愈々佳境に入った矢先、野澤治雄本会前会長の訃報に接した。あまりにも突然であり、ほんの数か月前にとも席を囲んだ小生としては未だに信じがたい思いである。若い日に栄えある全日本剣道選手権で3位となった栄冠をはじめ数々の剣歴を誇る故人の埼玉県剣道連盟に対する思いは並々ならぬものがあつた。本紙の題字「剣風」もまた故人の手になるものである。薫り高き剣風を遺した故人の遺徳を本連盟発展の礎にと念じつつ、今号を送り出したい。(奥田)